

朝あさになって、みんなが 出でかけてみると、

大杉おおすぎは、きのうと同じおなように 元通もととおりになっとなったそうなの。

「ふじぎじゃのう。」

「おかしいのう。」

「なんかあるんかいのう。」

みんなで がやがやい言っているよ、

大杉おおすぎの 根ねもとのほうから、

「もしもし、もしもし。」

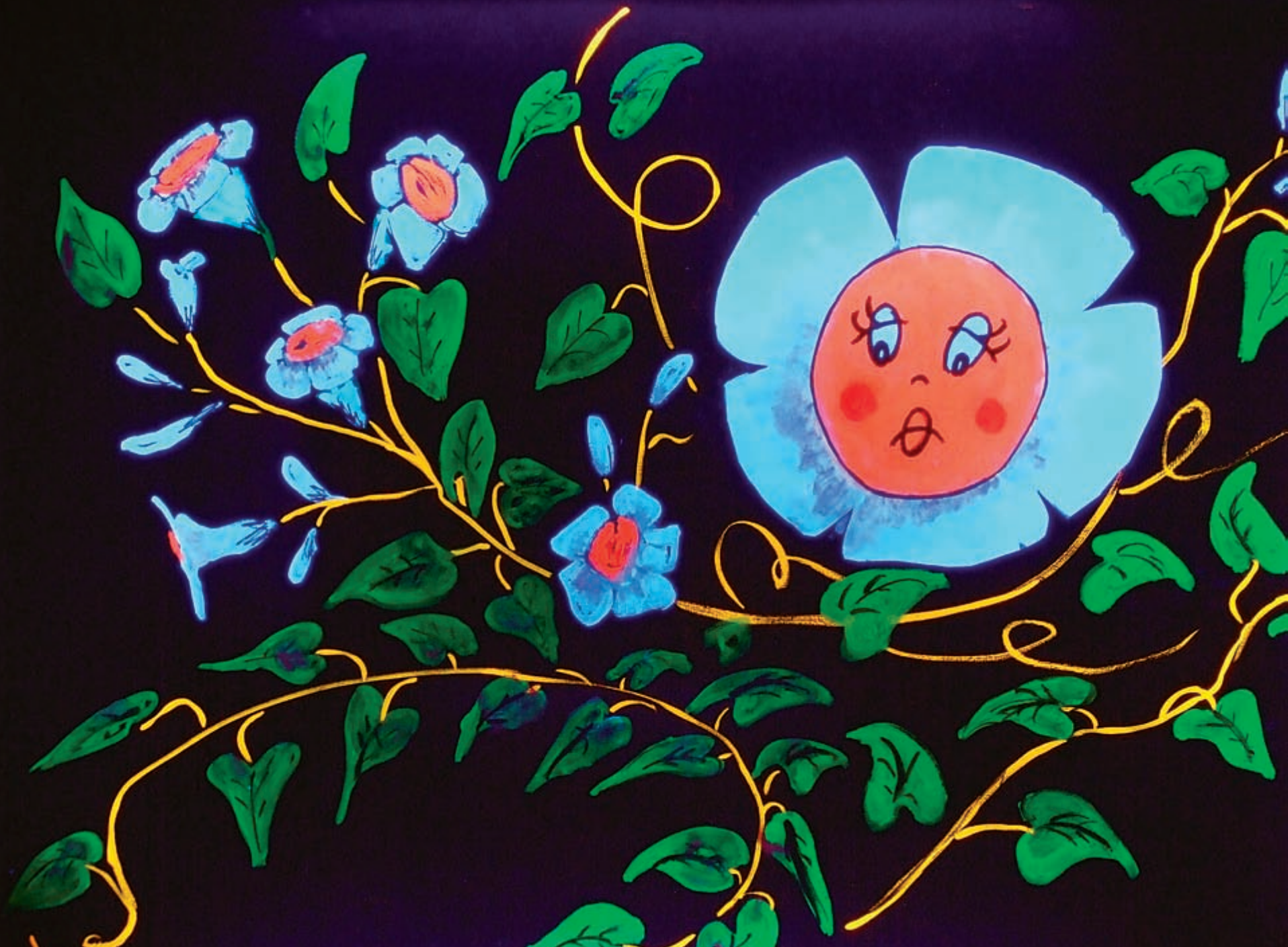
と、小ちさな声こゑが 聞きこえたんじゃ。





もしまし

もしまし



「私^{わたし}は、

小さ^{ちい}くて かわい^いいへクソカヅラです。

でも、カヅラの仲間^{なかま}からは、

おまえは、くさくて

つるは、へなへなで

何^{なん}の役^{やく}にもたたん奴^{やつ}じゃと、

ばかにされているんです。」

「でも、

私は 秘密を 知っているんです。

みなさんが切られた 大杉の木っ端を、

杉の木のまわりの カヅラ達が、夜のうちに全部集めて、

しめつけて、元通りに 治していたんです。





どうか 切られた木っ端を

全部、焼いておいてください。

そうすれば、この大杉は、きっと切りたおせます。」